

研究協力をお願い

昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

急性心不全患者におけるカルペリチドの利尿効果予測モデルの構築

1. 研究の対象および研究対象期間

2011 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までに昭和大学藤が丘病院循環器内科を受診し、急性心不全と診断され、血管拡張薬およびカルペリチド治療を実施した急性心不全患者

2. 研究目的・方法

急性心不全とは、心臓のポンプ機能が急激に悪くなることにより、呼吸困難感、浮腫、全身倦怠感などの症状が現れ生命を縮める病気です。肺水腫や体液貯留がある場合は、利尿薬及び血管拡張薬を中心に治療を行います。血管拡張薬は静脈系拡張による前負荷軽減を目的に投与され、肺うっ血や呼吸困難感を改善します。また、血管拡張薬の早期使用は、院内死亡率を低下したり利尿反応を増加したりすることから、血管拡張薬の早期使用の重要性がガイドライン上で示されています。

本邦では、血管拡張薬として主にカルペリチドが使用されます。カルペリチドにより利尿効果が得られることが示されていますが、中には十分な利尿効果が得られず、治療を強化する場合があります。従って、カルペリチドを使用する場合は、適切な患者に適切なタイミングで使用し、利尿効果を確認することが重要です。

一方、カルペリチドの利尿反応性を予測する因子についてはいくつか報告がありますが、結果が一貫しておらず、臨床で応用しやすい統合した指標は報告されていません。また、刻々と変化する急性心不全の治療は、利尿効果を予測しながら行われるべきであり、時間軸を考慮する必要があります。しかしながら、カルペリチドの使用タイミングについて検討された研究は少ないです。

そこで、本研究では急性心不全におけるカルペリチドの利尿効果を予測する因子を明らかにし、それらを統合した予測モデルを構築します。カルペリチドの利尿効果を予測する指標や使用タイミングが明らかになれば、利尿効果の高い患者に適切なタイミングで使用するができ、カルペリチドを含めた血管拡張薬の治療選択を支援できると考えています。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会」承認後、実施機関の長の研究実施許可を得てから 2024 年 3 月 31 日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ番号、生年月日、病歴、入院方法、身体所見、血液検査所見、心エコー所見、使用薬剤・治療、尿量など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学薬学部 臨床薬学講座 薬物治療学部門

氏名：稲本 真弓

住所：142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8

電話番号：03-3784-8221

研究責任者：

所属：昭和大学薬学部 臨床薬学講座 薬物治療学部門

研究責任者：向後 麻里